

The University Times

December 2011 Vol. 16

<http://jtimes.jp/utimes>

produced by IELTS by STEP × The Japan Times ©THE JAPAN TIMES, LTD. 2011

CONTENTS

■ Visit a Global Company : グローバル企業訪問 帝人株式会社 1 2	■ Journalist's Eye : 英字新聞記者の視点 「強制起訴」 / 「難民受け入れ」 3	■ Shu-katsu Counseling : 就活の不安を解消しよう 後悔しない企業・仕事研究 5	■ IELTS 2012年 IELTS 試験日程 7
	■ English for Careers : 就活英語を学ぼう 留学書類の書き方 4	■ University's Challenge : 国際交流に取り組む大学 全学生の留学経験を目指す早稲田大学 6	■ News in English 英文記事を読んでみよう 8

Visit a Global Company : グローバル企業訪問

創業当初から海外に進出し 時代の変化とともに 事業の進化に挑戦し続ける

Vol. 6 帝人株式会社 **TEIJIN**

1918年に設立された帝人株式会社は、時代とともに培ってきた科学技術の追求や最先端の研究開発を通じて、事業の拡大・多角化を行ってきた。いまだ止まることのない歩みの中で、同社ではどのような人材が求められているのだろうか。

帝人株式会社（以下、帝人）の歴史は変革の歴史である。1918年に日本初のレーヨンメーカーとして創立された後、時代の変化とともに、事業を拡大・多角化してきた。現在は、高機能繊維事業、樹脂事業、フィルム事業、医薬医療事業、IT事業などを展

開し、さらなる新事業の開発にも余念がない。数年前に「だけじゃない、テイジン」というキャッチコピーのテレビCMを放送していたが、まさに帝人は「だけじゃない」のだ。

かつて、繊維は日本の花形産業だった。歴史ある企業なので、当然ながら古くから海外

との関係がある。採用・人材開発部採用グループ長の奥田覚さんは、海外とのかかわりについてこのように語る。

「創業当時は、企業が海外進出するにはまだ強い覚悟や多くの時間、費用を要する時代でしたが、当社は海外技術を積極的に取り入れながら、さまざまなチャレンジをしていました。現在は海外にグループ企業が約80社あり、海外売上比率も約40%を占めています。2020年頃を目安にこの比率を60%に上げようという目標を持っています」

なぜ海外での売上比率を上げようとしているのだろうか。

「当社の売上は8,150億円ほどですが、さらに成長を加速させていかなければいけないと考えているからです。現在は欧米や中国では比較的売上がありますが、それに加えて、これから広がっていく市場、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）などをターゲットにして販売拠点を拡大していく予定です」

もちろん日本や欧米市場は大切である。しかし、すでに経済は爛熟期に入ったといわれている。それに対して、BRICsなどの新興国市場はまだまだ伸びる余地がある。成長を加速させるためには、ここに力を入れる必要があるのだ。

帝人の扱う商品は多岐にわたる。その中でも、これから力を入れていくのはどのような事業なのだろうか。

「基本的には、すべての事業を拡大していきま



採用・人材開発部採用グループ長の奥田覚さん

す。一つの事業に特化するという計画はありません。むしろ、今後の成長に不可欠なのは、それぞれの事業で培ってきた技術の融合による帝人グループならではの新しい事業の創出であると考えています」

海外進出を推し進めるためには、有能な人材が必要となる。現在、どのような人材を求めているのだろうか。

「グローバル化に関係なく、欲しい人材像として掲げているのが、『変化を糧に成長できる人財』です。というのも、当社はレーヨン製造から始まった会社ですが、その後、国内外の情勢変化を踏まえて、先手を打って新しいものにチャレンジし、事業を進化・拡大させてきたという多くの変化の歴史があり、今があるのだと思います。ですので、変化を楽しみ、チャンスと捉えて、自分自身を成長させることができる人を求めています。さらに言えば、自分から変化、変革を巻き起こせるような人を採用したいと考えています」

採用時にはどのような点を重視するのだろうか。

「ありきたりな言葉になってしまっていますが、やはり、『考え抜く力』と『最後までやり抜く実行力』、それに加え、『ほかの人にはない感性』も重視したいと考えています。もちろん、感性のみで採用するわけではありませんが、最近では面接時にそういったありのままの個性を隠す傾向があるように思うのです。もっと遠慮せずに感性を見せてもらえればと思います」

語学力は入社後に必ず求められる要件

帝人グループの社員は約1万8,000人。そのうち8,000人以上が外国人であるという。海外拠点で働く日本人の社員数は約



軽くて強い炭素繊維は、航空機や宇宙分野をはじめ、今後も幅広い分野で活用が期待される。帝人の主要な製品のひとつだ

Visit a Global Company

グローバル企業訪問

200人。少ないと感じるかもしれないが、日本国内の勤務でも海外との接点を持つ職務に就く社員は多い。

「採用時に、語学テスト何点以上といった設定はありませんが、語学力は入社後に必ず求められる要件の一つだと考えています。現在は日本国内での会議でも、外国人社員が参加する場合は英語で行っています。ですから、語学に興味があったり、熱心に勉強していたり、留学経験のあるような人材には期待感が

ありますね。

また、内定を出した学生の方には、英語能力テストやヒアリングテストの受験、英語の通信教育などを受けてもらうようになっています。入社2週間後にはインドか中国への海外研修があり、インドならば英語、中国ならば中国語で現地トップクラスの大学生とディスカッションするというカリキュラムも用意しています」

海外指向の強い学生の中には、「いつ海外勤務ができるのか」を気にする人も多い。帝

人の場合はどうなのだろう。

「特別に決まった期間があるわけではありませんが、海外勤務はマネジメント業務が中心になることが多く、とにかく仕事ができるようにならないと話になりません。当社には、若い社員にも仕事を任せる風土があります。『おまえはまだ見習だから、研修中だから』といった雰囲気はありません。任された仕事をこなしながら、成功や失敗を体験して、その中で成長していけば、扉は開かれると思います」

TEIJIN

帝人株式会社

1915年設立の米沢人造絹糸製造所が母体となり、1918年に帝国人造絹糸株式会社が設立。戦後にはポリ塩化ビニル繊維や、ポリエステル繊維を製造し、日本を代表する化学繊維メーカーとなる。1970年代以降は事業の多角化を行ない、世界各国の企業と合併事業を立ち上げる。2003年持ち株会社制に移行。現在は世界各国に150のグループ会社を持つ。2011年3月末時点で売上高は8,156億円、従業員数は17,542名。高機能繊維、ポリエステル繊維などの素材事業や、医薬医療、流通・リテール、ITといったサービス事業をグローバルに展開する。
<http://www.teijin.co.jp/>

グローバル企業の先輩に聞く！

何事も全力でやれば できないことはない

宮崎 拓郎 さん

帝人ファーマ株式会社
戦略企画室 医薬国際事業部
課長代理



学生時代はまったく英語ができなかったというが、入社後の猛勉強の末に英語力が上達。現在は英語を駆使して海外との取引をバリバリとこなしている

Q 現在のお仕事内容を教えてください。

A 帝人ファーマ株式会社の戦略企画室医薬国際事業部に勤めています。海外提携先との窓口が主な業務で、彼らからのオーダーに基づいた医薬品の生産調整や輸出貿易事務、提携先が販売目標を達成するためのマーケティング・プロモーション管理も担当しています。担当している提携先は15社ほど。出荷システム構築、マーケティングや営業管理など、業務の仕組みそのものを作る仕事にかかわらせていただいております、責任はすごく大きい

ですが、とても面白く、醍醐味を感じています。

Q 学生時代からこの仕事を希望されていたのでしょうか。

A 「この仕事をしたい」という明確な意思はありませんでした。ですので、就職活動もあまりうまくいかず、最終面接で落ちたりしていました。途中からは開き直って、「今まで自分は目の前のことに全力で取り組んできました。ただ、やりたいことが明確にはないので、それを働きながら探していきたい。雇っていただくからには全力で働きます」と自分の思いを

伝え、採用していただいたのが帝人でした。

Q 入社後から、現在の部署なのでしょうか。

A 入社後5年間は医薬品の営業を担当していました。医療現場に直接貢献できる仕事でやりがいがあったのですが、同じエリアを定期的に回ることや、専門性の高い知識が身につく一方で、限定的な知識になりかねないことから、もっと自分の幅を広げたいという思いがあり、現在の部署への異動を希望しました。異動したのが今年の1月です。

Q 異動の際に苦労されたことは。

A 今の部署に異動するためには、英語能力テストで高得点を取るようにと上司から言われていたので、1年ほど前から猛勉強をしました。移動中もひたすら車内でリスニングをしていましたね。そうするうちに、リスニングは慣れてきて、英語能力テストで高得点を取ることができました。

Q テストと仕事で使う英語の違いは。

A 最初は相手の話している言葉が聞き取れず、メールも書けない。先方から来たメールの解釈を間違えてしまい、重要な書類の送付を1カ月ほどストップさせてしまったこともありました。初めて海外に出張した時も、すごく緊張しましたね。会議にメキシコ訛りの英語を話す方が出席されていて、あまり内容を理解できませんでした。仕事をしながら、会社のサポートを受けて英会話学校に通い、先輩の指導も受け、異動当初に比べると、今はだいぶ英語には慣れました。

現在の部署にまだ貢献できていないところも多いですが、徐々に業務もこなせるようになってきました。これからは実際の売上に直接結びつくような活動をしていきたいです。

Q 帝人で働く魅力は。

A 当社は、国内外ともに事業拡大を加速させている発展途上の会社だと思います。そのような会社で、自分が事業を海外展開する枠



世界戦略商品である「フェブリック錠」（日本での販売名）。痛風・高尿酸血症治療剤の分野で約40年ぶりの新薬。宮崎さんはこの商品も担当している

組みや仕組みを作る段階からかわれるというのは、チャレンジングですごく面白いと思います。会社が急速に展開しようとしているので、いろいろなことに挑戦する機会にあふれているのが、当社の魅力ではないでしょうか。

Q 就職活動を行う学生に、社会人の先輩としてアドバイスをお願いします。

A 就職活動も大切ですが、学生時代に本当に大切なことは、目の前にある「自分が直感的にやりたいこと」や、「自分がやるべきこと」をしっかりとやることだと思うんですね。そこで得たものが自信となり、その人の魅力となり、結果的に就職活動にもつながると思います。私は大学時代にアメリカンフットボールをやっていた、アメフトで日本一になるとか、そんなことしか考えていませんでした。それが学生時代に直感的にやりたいことだったので、アメフトを通じて「何事も全力でやる」という習慣がついたので、それが今でも役に立っています。だから今でも、しっかり分析した上で必要な準備を整えられれば「できないことはない」と思っています。そのベースは、大学のときのアメフトであると思っています。

私は業界分析等の一般的な就職活動を行わなかったので説得力はないかもしれませんが、就職活動のために学生生活があるわけではないと思うので、今、やりたいこと、やるべきことを大切にしてください。

宮崎さんのお仕事アイテム



「私は入社当初は時間管理が苦手で、目の前の仕事、長期的に自分に必要な勉強、プライベートとのバランスがうまく取れていませんでした。今はこの手帳に1年の目標を立てて、それを月・週・日単位の落とし込んで書いています。この手帳に書かれている日々のスケジュールをこなすのが僕の仕事だといえます」

Journalist's Eye

英字新聞記者の視点

日本のニュースを英語で発信しよう！

英字新聞 The Japan Times 記者が語る
日本の「今」を世界に伝えるための心得

—— Vol. 6 by Setsuko Kamiya

日本で起こっていることを外国人に伝えるときに必要なのは、英単語の知識や会話力だけではない。物事の背景を理解し、それを外国人にわかりやすく説明するスキルが求められるのだ。このコーナーでは英字新聞 The Japan Times の記者に、記事をより深く理解し、自ら説明できるようになるためのコツを教えてください。今回は、社会ニュース担当の神谷説子記者に、強制起訴とミャンマーの難民受け入れについて解説してもらった。



無罪を主張している小沢一郎衆議院議員

KYODO PHOTO

■小沢一郎氏が直面した「強制起訴」とは？

Democratic Party of Japan former president Ichiro Ozawa pleaded not guilty to breaking the Political Funds Control Law. The powerful veteran lawmaker faced mandatory indictment after a panel of citizens decided that his case should be brought to court.

小沢一郎元民主党代表は、政治資金規正法違反に対し、無罪を主張した。市民による委員会が彼の事件は起訴されるべきであると決定し、この大きな影響力を持つベテラン議員は、強制起訴に直面することとなったのだ。

小沢一郎氏の裁判は、いろいろな意味で注目を集めています。まず、元民主党代表という強い影響力を持つ現職の国会議員が被告人であること。また、今回の裁判は、「強制起訴」によるものであるという点でも、非常に興味深いものとなっています。

市民団体の申し立てで起訴が実現

通常は起訴して裁判にかけるかどうか

を検察官が決めますが、検察官が「不起訴」と判断した場合でも、11人の市民からなる「検察審査会」が二度「起訴すべきである」と議決すると、被疑者は法に基づき「強制起訴」されます。これは2009年5月から実施されるようになりましたが、兵庫県・明石市の花火大会での歩道橋事故、JR福知山線の脱線事故など、これまでごく少数の事件にしか適用されていません。

小沢氏の政治資金管理団体である「陸山会」が東京・世田谷の土地を購入した際、政治資金収支報告書を虚偽記載したのではないかということで、2009年、市民団体が告発を行いました。小沢氏は証拠不十分で不起訴処分となりました。これに対して市民団体が不服を申し立て、「検察審査会」の議決により、強制起訴されることになったのです。

「密室」での取り調べに疑問

私は法廷に足を運んで取材していますが、通常の裁判と異なるのは、「検察官」がいないこと。検察官の役割を、裁判所が指定した弁護士が果たしています。

小沢氏は虚偽記載に加担したという「共謀」の罪に問われており、その重要な証拠となっているのが、石川知裕元秘書・現衆議院議員の供述調書です。石川元秘書は検察の取り調べ中に、小沢氏の関与を認める供述をしているのですが、裁判

ではそれを否定する証言を行いました。日本の検察官による取り調べは「密室」の出来事です。今回は石川元秘書がひそかに取り調べの録音を行い、その音声をもとに、検察から誘導尋問のようなことが行われたと主張したのです。

日本の裁判を外国人に説明するには、いろいろと注意すべきことがあります。強制起訴のようなしくみは外国にそのまま同じものが存在するとは限らないので、詳しく説明しなければなりません。また、アメリカでは取り調べの際に必ず弁護士が同席するので、密室での取り調べに強い疑問を感じるようです。

最近では取り調べの録音・録画が一部行われるようになりました。裁判員制度の開始以来、法律家の間で「市民が司法制度にかかわる」という意識が強くなってきたように思います。小沢氏の裁判の行方を見守りつつ、日本の司法制度の変化を追っていきたいと考えています。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20111007a1.html>

■ミャンマーからの難民受け入れ

A group of Myanmar's ethnic Karen people who lived in a refugee camp in Thailand arrived at Narita International Airport at the end of September, marking the start of the second year of a resettlement program run by the U.N. High Commissioner for Refugees.

タイの難民キャンプに住むミャンマーのカレン族の団体が、9月末、成田国際空港に到着した。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）による再定住プログラムの2年目が始まったのだ。

日本は長年、難民の受け入れに対して非常に消極的だったのですが、昨年、アジアの国としては初めて「第三国定住制度」の下で、ミャンマーのカレン族の難民を受け入れ始めたとして話題になりました。

カレン族はミャンマーの軍事政権からの弾圧を受け、多くの人々が難民としてタイに逃れています。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の支援により、これまで多くの難民がアメリカやオーストラリアなどに移っていきました。すでに他国へ逃れ難民となっている人々を受け入れることを「第三国定住」といいますが、ついに日本も受け入れ国として参加する

ことにしたのです。

支援プログラムに不満の声

まず試験的に、3年間に約90人のミャンマー難民を受け入れることが決まり、第一陣は昨年9月に到着、「定住支援プログラム」が実施されました。最初の6カ月間の日本語研修、日本の生活に関するガイダンスを経て、その後の6カ月間に農家での研修が行われました。しかし、支援プログラムの実態に問題があるのでは、という声が上がってきました。

具体的には、農業研修は平日朝8時から夕方5時までのはずであったのが、朝7時から夕方6時までの実質的な労働が

あり、土曜日にも働くことになった、家から農作業の場所までが遠く、子どもを保育所に預けていく母親が、毎日片道2時間の移動を強いられ体を壊した、といったものです。支援プログラムは外務省に委託された団体が運営し、ほかのNPOがかかわる機会はなく、日本在住のミャンマー人ですら彼らと交流の機会を持つこともできませんでした。

言葉の壁でコミュニケーション不足に

言葉も、大きな問題となっています。カレン族は彼ら独自の言葉を話し、ミャンマーの公用語であるビルマ語を流暢に話すわけではありません。一方、日本に

日本に定住するためにやってきた難民。日本語はほとんど話せない
KYODO PHOTO

はカレン族の言葉を十分に理解する通訳者がほとんどいないのです。カレン族の人たちと支援団体や外務省の間で十分な意思の疎通ができていたかは疑問です。

現在、日本全体の人口が減り続けている中で、日本に滞在する外国人の数は増えています。一部の地方自治体やNPOなどは外国人をサポートする活動に熱心に取り組んでいるようですが、日本の国全体の方針が見えてこないのが現状です。ミャンマー難民の第三国定住への取り組みをきっかけとして、政府や政治家が外国人受け入れや共生についてより真剣に考えるようになってほしいのではないかと思います。

* 参考記事 <http://www.japantimes.co.jp/text/nn20111015f1.html>

●今月の記者●

神谷 説子さん
SETSUKO KAMIYA

1998年入社。司法、経済、学芸等を経て、現在はデスク兼記者。アメリカ留学で陪審制を学び、日本の裁判員制度などを報道してきた。

English for Careers

就活英語を学ぼう

第6回

留学書類の書き方

by 株式会社アイベック スコット・シーリー、植草 良將

前回までは、英語面接の受け方についてご紹介しました。今回は、留学に当たって必要な書類とその書き方について、押さえておくべき必須事項、ほかの応募者と差を付けられる、つい忘れてしまいがちなポイントをご紹介したいと思います。

必要書類について

この時期、留学を考える人もいるでしょう。ここでは、アメリカ留学を例に説明します。可否は書類審査で決まり、大学によっては面接もあります。日本のような入学試験はないので、提出書類は丁寧に書きましょう。主な必要書類は以下の通りです。

- ・ 願書 (Application form)
- ・ 成績証明書 (Transcript)
- ・ 卒業証明書 (Graduation certificate)
- ・ 財政能力証明書 (Financial statement)
- ・ エッセイ (Essay)
- ・ 推薦状 (Letter of recommendation)
- ・ テスト結果 (Score report)

以下、詳細を説明していきます。

■願書

ウェブやEメールで請求します。ほとんどの大学がオンライン願書受付です。タイプ打ちが望ましいですが、手書きの場合はブロック体で記入します。

■成績証明書

英文の正式な成績証明書を出身高校・大学（在学中も含む）で作成してもらい、志望校へ直接送ってもらいます。可否決定において最重要視されます。複数の大学に出願する場合でも、学校印と発行した学長・校長・教諭の自筆の署名については、コピーでなく原本を用意します。

■卒業証明書

成績証明書に入学・卒業年月日が明記されている場合は不要です。

■財政能力証明書

名義人は親が望ましいですが、本人や祖父母、兄弟姉妹でも大丈夫です。学費、寮・食費など2年分を賄える額が望ましいです。一口座にまとめて証明書を取得する必要は

なく、複数の口座の残高証明書が必要額に達していれば問題ありません。

■エッセイ

後述します。

■推薦状

日本の大学からアメリカの大学に編入する場合、高校の先生と大学の教授に1通ずつ書いてもらうのが一般的です。大学院に進学を希望する場合、推薦状が3通必要になります。3通とも大学の教授に書いてもらっても構いません。原則として志望校へ直接送ってもらいます。用紙については、できれば推薦状を書いてくれる人の勤務する学校や会社のレターヘッドを用います。そのほかの注意事項は、この連載の第3回「英文履歴書の書き方②」に書いてありますので参考してください。

■テスト結果

IELTS や SAT、GRE、GMAT のスコアを各テスト機関から大学へ直接送付してもらいます。英検を英語力証明として提出することができる場合もあります（英検を入学資格として認めているアメリカの認定校は、2010年10月現在、約350校あります）。

エッセイの書き方

自己推薦文です。人物評価の上で重要視されます。志望動機、将来の目標、性格や能力、特技など自分をアピールしましょう。事前にテーマを与えられる場合、テーマは以下の種類に大別されます。

- ①自分自身のことを書かせる（例：本学の学生になるに当たり、あなたの資質やこれまで成し遂げたことを述べてください）
- ②その大学の志望理由を書かせる（例：あなたの教育目標を達成するために、なぜ

本学に入学したいか述べてください）

- ③出願者の創造性や独自性を探る（例：1年間一緒に過ごしたい人を挙げるとしたら誰ですか。それはなぜですか）
- 一つのテーマと一貫した論理展開に徹し

て書くようにしましょう。プリントしたものを提出する際は、A4サイズ1枚で上下左右とも1インチ程度（約2.5センチ）の余白を取ります。②のエッセイの具体例を下に挙げますので、参考にしてください。

(将来の目的、専攻したい分野)

My career goal is to become a professional urban planning specialist. Because experiences as a student at your university would provide me with opportunities to become a qualified community development planner in the field, **I would like to pursue a degree at your university with a major** in urban and regional planning.

(その専攻を希望するに至った理由)

The courses I took at XX University gave me a more profound insight into such things as city planning; the study of community development provided me with a basic knowledge of related theories. Through my education, my interest in urban planning grew until I had no doubt this was the field I desire to major in.

(その大学を志望する理由)

The primary reason that I would like to study at your university is that it has a renowned community development planning program that is more advanced than any in Japan. As mentioned above, I would also like to study in the US so that, as an urban planning specialist, I can contribute to society because US is better to learn how contribute society as a city planner. Your university has an excellent reputation, and is the place where I would like to study to become a qualified community development planner.

(専攻分野と関係のあるクラブ、ボランティア活動など)

I have been a member of the urban planning research group at XX University in Japan since 2009. **I made good relationships with members from a variety of nationalities and backgrounds.** I learned to understand and embrace our differences through various activities, but I feel that there are more opportunities for me to learn about and experience diversity in many ways at your university. I hope that you will approve my application. **I am determined to work hard**, and wish to be an active member of your diverse international student body.

● 重要なポイントを押さえておきましょう ●

■将来の目的、専攻したい分野

My career goal is to become...
卒業後の志望職業から書き、「そのために○○を学びたい」とつなげます。

I would like to pursue a degree at your university with a major in...
「あなたの大学で○○を専攻したい」という決まり文句の一つです。

■その大学を志望する理由

The primary reason that I would like to study at your university is that...
志望理由を最初に書きます。

■専攻分野と関係のあるクラブ、ボランティア活動など

I made good relationships with members from a variety of nationalities and backgrounds.
多国籍社会のアメリカで人間関係をうまく築けることを示すため、さまざまな人と良い関係だったことを述べます。

I am determined to work hard
「精一杯勉強する決心ができています」と熱意をアピールします。

いかがでしたか？ ポイントを押さえたエッセイで、ほかの応募者に差を付けましょう。次回からは、英文Eメールの書き方をご紹介します。

PROFILE

スコット・シーリー (Scott Seeley)

コーネル大学（ニューヨーク）で修士号（心理学）と学士号（生物学）を取得。英語学校マネージャーを経て、株式会社アイベック講師ビジネスライティングトレーニングマネージャー兼採用担当マネージャー。日本語と英語のバイリンガル。多数の企業より指名を受け活躍中。



植草 良將 (Yoshimasa Uekusa)

東大文学部卒業。東大大学院人文社会系研究科修士課程修了。専攻は言語学。英文Eメールライティングなどの学習指導・教材開発を手がける。実用英語技能検定1級。趣味はヴェーダとサンスクリット語。修士論文のテーマはインド・スリランカのタミル語。



世界基準のビジネス英語能力テスト

BULATS

The Business Language Testing Service

世界約47カ国1,172団体、
日本でもすでに350以上の企業・団体が採用

詳細は www.eiken.or.jp/bulats

お問い合わせ tel 03-3266-6366

mail stepbulats@eiken.or.jp

世界と繋がるために

Are you sure your message is
getting through?

BULATS

Fast, reliable,
and global

Shu-katsu Counseling

就活の不安を解消しよう

ブンナビ編集長の就活相談ABC

文化放送キャリアパートナーズ 玉造 剛

5月にスタートした本コラムも、はや半年。これまで、自己分析や企業研究の方法などさまざまなアドバイスをお伝えしてきましたが、いよいよ就活シーズン到来です。今後、説明会にエントリーシートにと、忙しい毎日となるでしょうから、今回は一呼吸置いたための、アイスブレイク的な内容としました。本番を迎えるに当たり、いま一度、準備は万全か確認してみてください。

第6回

【今月の質問】

入社してから後悔しない企業・仕事研究の方法が知りたいです。

早期離職の一番の原因はミスマッチ

いよいよ12月。待ちに待った企業エントリーの解禁で、就職活動はついにスタートを切ります。ちなみに昨年度の先輩たちの平均エントリー社数は93.1社。しかし、企業説明会などの広報期間が2カ月も短縮されてい

る今年は、まったく同数というわけにはいかないでしょう。それでもチャンスは狭めないためには、ある程度の「数」の確保は必要になりますので、そこだけは念頭に置いておいてください。

さて、今回の本題である「入社してから後悔しない」ための企業・仕事研究について

ですが、これは実際に入社してからの仕事内容や日々の業務について、いかに正しく理解できているかどうかに尽きます。早期離職の一番の原因が、「思っていた仕事と違った」「こんなはずじゃなかった」という後悔によるものです。いわゆるミスマッチですね。それを防ぐためには、「誰がお客様で、そのお客様は何を求めているか、お客様に何を提供するのか」に注目することで、その仕事の本質が見えてくるはずですが。

同じ営業職でもまったく異なる仕事の内容

営業職を例にとってみましょう。まず「誰がお客様なのか」でいえば、法人と個人とでは仕事の内容は大きく異なります。さらに法人営業の場合は、クライアントの数も仕事の性質に影響を与えます。例えば自動車部品メーカーであれば、お客様は自動車メーカーとなり、海外メーカーを含めても数えられるくらいの社数だと思えます。つまり「顧客1社1社と深くお取引する」「少ない顧客を競合他社と奪い合う」といった仕事になるでしょう。当然、コミュニケーション能力の高さが求められるでしょうし、信頼関係を構築するための人間性や、きめ細やかな心配りができる人が重要視されるはずですが。

一方、これが事務機器メーカーとなると、オフィスを構えている会社すべてが対象となりますから、「さまざまな業界・企業と広くお取引する」「次から次へと新規開拓していく」仕事となります。重要なのはアクション数で、ダメだったら「ハイ、次」と気持ちを切り替えて、積極的に営業できる人が求められるでしょう。つまり、一口に営業職志望といっても、まったく仕事の性質が異なってくるわけです。営業スタイルの違いをしっかりと把握しておかなければ、入社後に後悔することになります。これは、どんな業界においてもいえることでしょう。

「お客様のお客様」のニーズに注目

次に「お客様が何を求めているのか」につ

いてですが、これは「『お客様のお客様』が何を求めているのか」を把握することでの確に捉えることが可能です。当社の例で恐縮ですが、私は採用コンサルタントとして、企業の人事部をお客様としています。では、人事部のお客様とは誰でしょうか？ やはり一番はその会社の経営者です。経営者は、「将来の会社の成長を支える優秀な人材の獲得」を考えています。ですから人事部の方は、「学生を多く集め、効率よく優秀な学生だけを選抜する方法」を就職情報会社に求めます。このニーズに応えるべく、競合他社よりも費用対効果の高いサービスを考え実行すること。そして何より、「この人に任せれば安心」という信頼感を提供することが私の仕事となります。

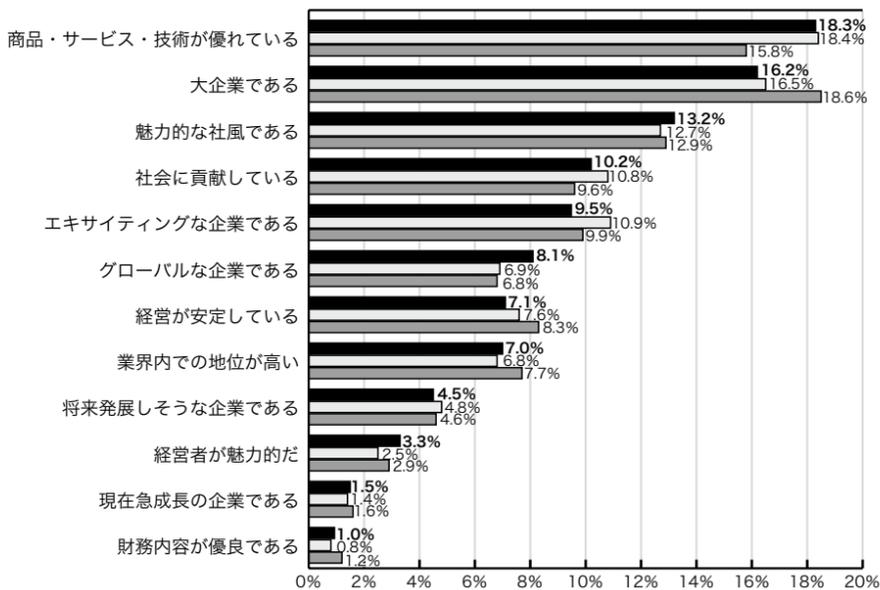
また、お客様とは少し違いますが、当社の経営者から売上・利益目標を達成することを求められていることも、私の仕事にとっての重要な要素です。このように仕事をする上で、ステークホルダー（利害関係者）は社内外に存在し、その人たちが期待されている「役割」そのものが仕事の本質なのです。自分を取り巻くステークホルダーのニーズを知ることが仕事を理解する近道となりますので、ぜひじっくりと考えてみてください。

そしてこれらの情報の多くは、通常は採用ホームページや入社案内の中の社員紹介やプロジェクト紹介を熟読すれば得ることができます。しかし実際は、読み流して仕事を理解したつもりになっている人がほとんどです。自分に期待されている役割とその役目を果たすためにも、「誰がお客様なのか」に重点を置いて読んでみてください。ミスマッチは周囲の期待と自分自身が望んでいる働き方にギャップが生じた時に起こります。後悔しない社会人生活を送るためにも、企業選びは会社の規模や業界順位だけで考えるのではなく、仕事の本質を理解し、自分自身の働き方をイメージすることを忘れないでください。

【参考】

就職先としてどのような企業価値に魅力を感じましたか。

就職活動後半 比較



長い間トップを維持していた「大企業である」が、昨年2位に下がった。その流れは今年も引き継がれている。また、就活当初から中小企業に目を向ける学生が増えている。企業規模よりも「商品・サービス・技術が優れている」を重視し、視野を広げて企業選択していることが分かる。



PROFILE

玉造 剛
ブンナビ編集長。採用コンサルタントとして、採用計画立案から面接官のトレーニングまで、数多くの企業の新卒採用にもかかわる。
ブンナビ
<http://bunnabi.jp/>

ジャパントイムズの本

最新号



The Japan Times NEWS DIGEST

CD1枚付き
ジャパントイムズ 編
定価1,050円(税込)

Vol. 33 2011.11

●巻頭特集

スティーブ・ジョブズ、アップルCEOを辞す

その他の収録記事

- 野田首相迎え、オバマが基地問題で行動促す
- 放射能汚染土壌は8都県に など18本

(予約購読) <https://club.japantimes.co.jp/subscriptions/new/nd/>

The Japan Times NEWS DIGEST

ニュース英語 キーワード 2011

ジャパントイムズ 編
定価1,260円(税込)

今年メディアで伝えられたニュースのテーマごとに重要語句をピックアップ。例文・イラストなどを交えて丁寧に解説。練習問題付き。

University's Challenge

国際交流に取り組む大学

全学生の海外留学経験を目指し 豊富なプログラムを提供

早稲田大学

国際教養学部の設置や約 4,000 人もの留学生の受け入れなど、早くから国際化を進めてきた早稲田大学。その活動を支えているのが、外国人学生の受け入れを担当し、毎年約 1,700 人の日本人学生を海外に送り出している留学センターだ。留学センターの黒田一雄所長に、その活動について伺った。

■全学生が一度は海外経験を

「2010 年度の海外留学者数は、長期が 948 人、短期が 738 人と、合わせて 1,686 人になりましたが、これを 3,000 人のレベルに上げたいと思っています。これは決して、不可能な数字ではありません」と、早稲田大学留学センターの、黒田一雄所長。日本人の留学者数が年間 6 万 7,000 人ほど（文部科学省 2010 年 12 月発表）であることを考えると、一大学



黒田一雄留学センター所長。大学院アジア太平洋研究科教授も務める

としては、画期的な数字だといえる。「日本の若者は海外に出ず内向きになっているという声がありますが、必ずしもそうとはいえません。確かにアメリカへの留学生は減っていますが、その他の地域では増えているところもあります。早稲田大学は、学生の『多様性』が特徴。海外経験があり英語が堪能という学生だけでなく、まだ一度も海外に出たことがない、という学生も応援し、最終的には、全学生が在学中に一度は海外生活を経験するという環境を実現させたいと思っています」

留学センターの運営している留学プログラムとしては、次のようなものがある。

まず半年、または 1 年という単位で行われる「交換留学プログラム」は、現地の大学で通常の授業を受けるもので、年間約 300 人もの学生が参加している。また、「ダブルディグリープログラム」という、在学中に海外の名門大学に留学し、所定の要件を満たせば、卒業時に早稲田大学と派遣先の大学、両方の学位を取得できるプログラムもある。現在は、中国の北京大学、復旦大学、台湾国立大学などで実施しており、こちらも年間 74 人と、少なくない人数が参加している。

以上は現地の言葉で授業を受ける能力を持った学生向けのものだが、「語学力はまだ足りないが、単なる語学留学では

なく、海外の大学で授業を受けてみたい」という学生向けに、語学習得のサポートをつけたプログラムもあるそうだ。

■世界各地に 700 の協定校

短期留学プログラムは、春季・夏季に定期的実施。語学研修、留学準備など、さまざまな内容の中から自分の目的に合ったものを選べるようになっている。

このほか、各ゼミで自主的に実施している短期研修や、ボランティアセンターで行っている支援活動への参加などを合わせると、大学を通じて海外で活動する機会は数えきれないほどになる。「全学生が在学中に一度は海外生活を経験する」という目標も、不可能なものではないだろう。

「学部間の交流を含めると、海外の協力校は約 700 にも上り、アメリカのコロンビア大学、エール大学といったトップ校との交流もあります。各学部での単位の認定制度や奨学金制度などサポート体制も充実しており、半年・1 年という長期間の留学でも、4 年間で卒業することは可能になっています」

留学センター内にも「グローバルカレッジ科目」「地域研究科目」など、世界のビジネス・経済・文化などに関する授業が設けられ、英語で授業を受けることができる。留学の準備をしたい学生、もしくは帰国後にさらに知識を深めたいと考えている学生にも、その機会を提供しているのだ。

また、学部の壁を越えた授業を行う「オープン教育センター」では、1 クラス 4 人までという少人数の英会話レッスンを実施。全学生が、実践的な英語を身に付ける機会を与えられている。

■外国人学生数は日本一

一方で、外国人学生数約 4,000 人という、日本一の規模を誇る受け入れ体制（2 位は立命館アジア太平洋大学、3 位は東京大学、日本学生支援機構平成 22 年度 5 月の統計より）については次のように語る。

「英語の授業に関していえば、1998 年に大学院アジア太平洋研究科で始めたのが、最初の英語による学位プログラムです。現在、国際教養学部での講義はすべて英語、その他にも一部の大学院・学部では英語で行われる授業だけで学位を取得することができます。日本語と英語を



早稲田大学のシンボルともいえる大隈重信像と大隈講堂

併用する研究科も設けています」

黒田所長は、大学院アジア太平洋研究科の教授でもあり、教育学・社会学を専門としている。

「早稲田大学は 1885 年（明治 18 年）に最初の留学生を受け入れて以来、ピーク時には全学生の約 25 パーセントが中国など近隣アジア諸国からの留学生だった時代もあります。そのため、中国や韓国では昔から早稲田大学の知名度が高く、現在でも多くの学生が早稲田大学への留学を目指してくれています。ただ、現在、日本に来る留学生の約 6 割は中国人ですが、本学では割合的には減少しつつあり、今は全体の 4 割ほど。日本語で授業をする場合は、留学生にも高い日本語力が求められるため、必然的に日本語能力が比較的高い中国や韓国の学生が多かったのですが、英語で授業を行うようになってからは、留学生の出身国が非常に多様化してきています」

国別で見ると、タイ・シンガポール・インドネシアといった東南アジアの国々のほか、ウズベキスタンやモンゴルといったアジアの他の国々の学生も多い。「英語で授業を行っている大学院の授業では、日本人学生より外国人学生のほうが多いという現象も起こっています。そういった学生が本国に帰ると、政府や企業で要職を得る場合も多いので、日本人学生にとって、外国人留

学生とともに学ぶことは、グローバルなネットワークを築くための絶好の機会ともいえるのです」

また、異文化交流のための「国際コミュニケーションセンター」(ICC) があり、外国人学生と日本人学生が交流するためのイベントの開催や、互いに自国の言葉を教え合うランゲージ・エクスチェンジの紹介などを行っている。センター内には学生スタッフリーダーが常駐、イベントの企画・運営などは学生たちが自ら手掛けているそうだ。

「英語ができるアジアの学生には、アメリカで学ぶという選択肢もあります。そこをあえて日本に来るのは、やはり『アジアのバックグラウンドの中で学びたい』という思いがあるからです。アジアやアセアン諸国の共通語は、すでに英語です。早稲田大学は、『英語で授業をする日本の大学』ではなく、ユニバーサルな学問の拠点として発展していきたいと考えています」



留学生を含めた学生が集うグローバルフェスタ

早稲田大学

1882 年（明治 15 年）、大隈重信が設立した東京専門学校を前身とし、1920 年に大学設置。建学時から「広く世界に活動す可き人格を養成」することを理念として掲げてきた。東京の早稲田・戸山・西早稲田、埼玉の所沢にキャンパスを持つ。学生数約 5 万 5,000 人を数える大規模校であり、各界に多様な人材を輩出している。

IELTS

2012年 IELTS 試験日程

2012年

IELTS 試験日程発表

2012年のIELTS試験日程が発表されました。IELTSは英語能力を証明するためのテストで、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドのほとんどの高等教育機関で認められています。海外留学などで英語能力の証明が必要な方には最適なテストです。

IELTS 試験日程

IELTSは全国の主要都市で受験することができます。東京では月2〜3回、その他多くの都市で月1回は試験日が設定されています。詳しい試験日程は下の表でご確認ください。

IELTSとは

IELTSは、留学や海外移住の際に必要な英語力を評価する試験です。ブリティッ

シュ・カウンシル、IDP: IELTS オーストラリア、ケンブリッジ ESOL の3団体が共同運営しており、日本では財団法人日本英語検定協会とブリティッシュ・カウンシルが共同運営しています。全世界規模で行われているテストでもあり、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど135カ国、6,000以上の教育機関、国際機関、政府機関が採用しているテストです。アメリカだけでもアイビーリーグ8大学を含む3,000以上の大学で採用されて

います。

年間受験者数を見ても、世界規模で行われているテストであることが分かります。現在の年間受験者総数は150万人を上回っており、日本でも年々受験者が増加しています。2010年度には、受験者数は前年度の40%増で初の1万人を突破しました。今後も受験者数が増加していくことが予想されます。

2012年の試験会場

2012年は、全国12都市（札幌、仙台、東京、横浜、金沢、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、福岡）で試験が実施されます。東京や大阪などでは、収容可能人員を大幅に増やしており、より多くの受験者が試験を受けやすくなりました。また、首都圏だけでなく、アクセスしやすいように地方でも試験を実施しています。7月、9月、11月の東京では試験を月3回実施します。

なお、受験者の多い教育機関には特別会場を設け、学校内で、在学生を対象としたIELTSの実施が可能です（基本20名以上から）。

■試験の特徴

IELTSのテストは大きく筆記試験とスピーキングテストに分かれています。また、筆記試験もリスニング、リーディング、ライティングの3つに分けられます。スピーキングテストは英語ネイティブの面接官との対面式となります。

テストの結果は、1〜9までのバンドスコアで示され、合格・不合格はありません。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングのパートごとのバンドスコアのほか、総合評価としてのオーバーオール・バンドスコアも示されます。テスト結果は筆記試験日の13日後から、オンライン試験結果表示サービスで閲覧可能です。また、留学先に提出するスコアレポートは、テスト後1カ月以内であれば5通まで無料で発行されます。

お問い合わせ・申し込み

財団法人 日本英語検定協会 IELTS 事務局
〒162-8055 東京都新宿区横寺町 55
TEL: 03-3266-6852
E-mail: ielts@eiken.or.jp

試験日	札幌	仙台	東京	横浜	金沢	名古屋	京都	大阪	神戸	岡山 / 広島	福岡
1月	7日			●							
	14日		A					A			
	21日		●			●	●				
2月	4日		A						A		
	18日		●			●		●			
	25日	A			A						A
3月	10日		●	●		●		●			
	17日			A	A						
	24日			A			A				A
4月	14日										
	21日	●			●			●	●		
	28日			A		A					
5月	12日		●	●			●				
	19日				A			A	A		
	26日			●		●				●岡山	
6月	9日	●			●			●	●		
	16日			A		A					
	30日			●			●			●広島	●
7月	7日				A						
	12日			●							
	21日			●				●	●		
8月	28日			A		A	A				
	4日				●			●	●		
	11日	A		A							
9月	25日		●	●		●	●				●
	1日			●	●			●	●	●岡山	
	15日			A			A				
10月	22日			●		●					
	11日				A						
	13日							●	●		
11月	20日			A			A			A広島	
	27日	●		●		●					●
	3日				A			A	A		
12月	8日			●							
	17日		●	●		●					
	24日			A			A				
12月	1日				●			●	●		
	8日			●						●広島	●
	15日			A			A				

●: 開催日 A: Academic のみの開催 土曜開催 木曜開催



The test that opens doors around the world

- IELTS (アイエルツ・International English Language Testing System) は英語圏への留学や、移住を志す人のための英語運用能力試験
- 信頼性、公平性の高さからイギリス、オーストラリア、アメリカ、カナダ等の135の国と地域・6000以上の大学・政府機関・多国籍企業で採用、全世界で年間150万人が受験
- 日本では、札幌、仙台、東京、横浜、金沢、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、福岡で開催。日本英語検定協会とブリティッシュ・カウンシルの共同運営により利便性が向上
- ペーパーベースで筆記は記述中心、スピーキング試験はネイティブスピーカーの試験官との1対1の面接形式
- 生きた英語を学び取れる、実際の場面に即した出題形式
- ブリティッシュ・カウンシルではIELTS試験対策コースを東京・横浜で開講 www.britishcouncil.or.jp

お問い合わせ・受験申し込みは(財)日本英語検定協会IELTS事務局まで www.eiken.or.jp/ielts

IELTS™

世界が認める人材へ、
世界が認めるIELTSで



BRITISH COUNCIL



財団法人 日本英語検定協会

(財)日本英語検定協会とブリティッシュ・カウンシルは、日本でのIELTSを共同運営しています。

This month's selections from The Japan Times

Crooks pick on stores with few workers Late-night establishments ripe targets for robbery

Minoru Matsutani

STAFF WRITER

“Gyudon” beef-on-rice restaurants belonging to the Sukiya chain have become a favorite target of robbers.

The chain's outlets accounted for about 90 percent of all gyudon diners that were victims of stickups between January and September, according to the National Police Agency.

To counter the situation, Zensho Holdings Co., which runs the Sukiya chain, will assign at least two workers at every outlet by March.

Some restaurants and convenience stores stay open 24 hours to serve late-night clientele, particularly taxi drivers and businessmen. But their level of employee security varies, and Sukiya outlets appear particularly vulnerable.

According to the National Police Agency, out of 71 robberies at gyudon restaurants from January to September, 63 targeted Sukiya. The Yoshinoya chain had only six, while Nakau eateries suffered two.

Gyudon restaurants currently number about 4,200 nationwide, according to their websites and media reports.

In separate NPA statistics, the number of robberies at convenience stores between 10 p.m. and 7 a.m. stood at 614 in 2010 and the figure fluctuated between 468 and 767 in the previous 10 years. As of September, there were 43,969 convenience stores, according to the Japan Franchise Association, which compiles the numbers from 10 major convenience store chains, including Seven-Eleven, Lawson and Family Mart.

Last year 154 restaurants, including gyudon outlets, were held up, according to NPA statistics.

There are no statistics for robberies at other likely targets that are open late, but occasionally have no customers and very few employees, including eateries specializing in “soba” buckwheat noodles and ramen.

There are several reasons why Sukiya seems to have been singled out. The biggest is that many have only one worker late at night. The NPA noted in a press release that many Sukiya outlets keep large amounts of cash and have only one cash register, often near the entrance. And some outlets are suburban and have little foot traffic.

Other gyudon restaurants as well



Target: A customer leaves a Sukiya “gyudon” eatery in Minato Ward, Tokyo, in early November.
SATOKO KAWASAKI

as convenience stores have at least two people on duty at all times. Lawson and Seven-Eleven spokesmen said there is enough work late at night, such as checking inventory and cleaning up in preparation for the next day, to justify the added payroll.

Responding to an Oct. 13 NPA

order to strengthen security, Zensho will man every Sukiya outlet with two people by March.

Zensho spokesman Naoya Hiro-tani said a Sukiya worker sustained a minor injury when his outlet was robbed in September, and he is the only person hurt this year in connection with a robbery.

North Korea ends Japan's unbeaten run under Zaccheroni

Pyongyang

KYODO

Japan suffered its first defeat under coach Alberto Zaccheroni as the Asian champion lost 1-0 to 10-man North Korea in a World Cup qualifier on Nov. 15.

In Japan's first match in the North Korean capital since June 1989, Pak Nam Chol scored the lone goal early in the second half to end the Blue Samurai's 16-game unbeaten run with Zaccheroni, who took over after the 2010 World Cup from Takeshi Okada.

“They played a tough, physical game in circumstances that were very difficult for us,” Zaccheroni said. “They were determined for this match after having failed to qualify for the next round. A victory over Japan was exactly what they needed to overcome their disappointment.

“Our goal was to reach the next round on this two-game road trip, which we've done. They had the lux-

ury of focusing solely on this match.”

Japan, which played its last game of an Asian Cup-winning year, had already advanced to the final qualifiers for the 2014 World Cup in Brazil from Group C after beating Tajikistan 4-0 on Friday, followed by Uzbekistan's 1-0 home win over North Korea. North Korea, which appeared in South Africa last summer, was eliminated.

Japan has one match left in third-round qualifying on Feb. 29 at home to Uzbekistan.

“It's a tough defeat to swallow,” captain Makoto Hasebe said. “I just feel terrible for all our supporters. The next qualifying round will be even tougher so we need to be ready.”

The North Koreans poured it on in the first half before a deafening crowd at the 50,000-seat Kim Il Sung Stadium.

Zaccheroni made six changes to his starting lineup from the victory over Tajikistan, and the overhauled

team failed to click as the hosts took advantage of the lack of Japanese cohesion.

North Korea saw World Cup striker Chong Tese depart early in the 34th minute, but the absence of the former Kawasaki Frontale player did not hinder the performance of Yun Jong Su's men, who continued to control the game.

The teams headed into the tunnel with a 0-0 scoreline but parity would be short-lived as the North Koreans went ahead in the 50th minute.

Pak Kwang Ryong headed down a Ri Kwang Chon free kick for Pak Nam Chol, who rose over helpless defender Yuichi Komano to nod home off the righthand post.

The deficit forced Zaccheroni to turn to his bench two minutes past the hour, when the Italian sent playmaker Kengo Nakamura on for right-back Atsuto Uchida, going to a more aggressive 3-4-3 formation.

Moments later, Japan went up a man as Jong Il Gwan was given his marching orders after drawing a



Surrounded: Japan midfielder Hiroshi Kiyotake (11) vies for the ball against a trio of North Korea players during a World Cup qualifier in Pyongyang on Nov. 15. North Korea beat Japan 1-0.
KYODO

second yellow card, and only then did the visitors really start to get forward.

The North Koreans held on through four minutes of injury time before the stadium erupted in joy, keeping the Japanese winless in Pyongyang.

Japan hadn't lost to North Korea since the 2005 East Asian Championship in South Korea.